

【修正版】とっりの元気づくり全体会議(第2回) 分科会 まとめ

テーマ	現状の課題	変化を促す対象・層は？	協働・参加すべき(巻き込むべき)相手は？ 具体的な団体や人々	目指す成果
自然を活かした体験活動の普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然が豊か」とは？の定義がはっきりしない</li> <li>・自然はどこにでもあるが、差別化が図れていない</li> <li>・自然を保護していかなければ、将来廃れてしまう</li> <li>・一部の人しか知らない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代、家族</li> <li>・地元客、地元住民、県外客</li> <li>・規制に関わる行政や団体 (自然は活用することで生きるが、使う人によっては破壊につながる 活用時の規制が必要)</li> <li>・青少年育成団体</li> <li>・興味や関心のない人</li> <li>・活動者(認識の向上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段考えていない人</li> <li>・行政</li> <li>・既存の保育園や幼稚園、小学校</li> <li>・マスコミ、ロコミ</li> <li>・青少年育成団体</li> <li>・ものづくりに関われそうな人・団体 (森林組合・建具屋・美大生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の人の行動の変化</li> <li>・他県と比べて頭ひとつ飛び抜けた存在</li> <li>・県全体を使った「体県国」にする</li> <li>・必要な設備・施設の充実</li> <li>・世代間交流、海外交流が盛ん(子ども)</li> <li>・鳥取といえば「鳥取砂丘、大山、〇〇！」と言えるように</li> <li>・県産材の利用が図れている</li> </ul>
移住者・若者等の活躍による地域づくりの担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で若者を受け入れる雰囲気づくり</li> <li>・今までになかった新しいアイデアや面白い発想を応援する姿勢</li> <li>・狭い地域なのに大人たちがまともされない (妥協や譲歩、寛容さが無い)</li> <li>・地元の大学生に地域に出てもらいたい</li> <li>・若者のまちづくり団体への加入、活動参加が少ない</li> <li>・県外に出た若者が戻ってこない</li> <li>・若者が少ない</li> <li>・耕作放棄地の現状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人たち</li> <li>・自治会区長、自治公民館長</li> <li>・子どもたち</li> <li>・若者、学生</li> <li>・大学 地域交流センター(学校側の熱意)</li> <li>・農業後継者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント実施団体</li> <li>・活躍している人すべて</li> <li>・若者の意識度の低さ(興味がない) (楽しんでいる人が伝えれば関心を持つ)</li> <li>・姉妹都市の若者</li> <li>・鳥取県が好きな若者(とっとり愛)</li> <li>・小学生</li> <li>・大学</li> <li>・農業や商工団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松崎駅周辺や大山町(築き会まわり)のようなエリアが増える</li> <li>・子どもたちがUターンも選択にもてるよう、地域の魅力に触れる場を増やす</li> <li>・「官力」が軸ではなく、「民力」が軸で動く地域</li> <li>・交流で成り立つまちづくり</li> <li>・地域のコミュニティ連携 → 多世代交流の空間の創出 → 人口現状維持</li> <li>・若者の力で大人たちのマインドを変える</li> <li>・ボランティアに参加することが当たり前の雰囲気になる</li> <li>・地域体験で考えた、感じたアイデアを地域にフィードバックできる</li> <li>・農業ビジネスの自立化</li> <li>・持続可能な鳥取県の新ブランドの創出</li> </ul>
古民家・空き家等の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家主との関係</li> <li>・危険家屋</li> <li>・問合せ窓口がわからない</li> <li>・空き家を使うメリットは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家主、オーナー (受け渡さない理由、仏壇をどうするか)</li> <li>・行政</li> <li>・地域住民(地域にとってのメリット)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO、民間企業、公民館、地縁団体</li> <li>・若い人へのアプローチ</li> <li>・古民家のメリット (地域にとってのメリット、住む人にとってのメリット)</li> <li>・リノベーション</li> </ul> <p>[手段]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元魅力再発見</li> <li>・人にアピール SNS で発信</li> <li>・生業とする業態がでてくること</li> <li>・コミュニティビジネス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルサイト、ホームページ (メリットの情報発信)</li> <li>・コミュニティビジネスの創出 (空き家へのつなぎ手) (トータルコーディネート、一連の提案をパッケージ等でも行える)</li> <li>・古民家活用事例の紹介により、双方にとってのメリットを発信する(移住者、地区住民)</li> </ul>
コミュニティの基盤強化と子育て・高齢者・障がい者の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりが点と点 福祉分野以外のつながりが薄い</li> <li>・地域のすべての人たちとつながらないといけない</li> <li>・独り世帯が様々な課題を抱えている (衣食住の確保 ちょっとしたこと困っている → 地域の助け合いの必要性)</li> <li>・若者層が自立できていない (80-50 問題 認知症の 80 代と引きこもりの 50 代の家庭)</li> <li>・働く能力はあるが働けない (家庭内に要介護者や学童に入れない子ども)</li> <li>・子どもの貧困 (高校生が学費を稼ぐためにアルバイト)</li> <li>・子育てに関して親同士の助け合いが弱い</li> <li>・人に頼ってもいいんだよということができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO、地域団体、支援機関</li> <li>・行政が変わること</li> <li>・地域の皆さん</li> <li>・今、課題を抱えていない人</li> <li>・理解者を広げる → 協力者を広げる → 実践者を広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、企業、自治会、公民館、福祉団体</li> <li>・地域包括支援センター</li> <li>・県外の方</li> <li>・メディア</li> <li>・老人会</li> <li>・こどもの人権広場、自立支援施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東・中・西部のネットワークの成果が県全体で活かされている。</li> <li>・各分野のネットワーク・連携ができてきている</li> <li>・世代間交流が濃厚に、活発にされている</li> <li>・子どもの権利条例ができてきている (勉強会がすすめられている)</li> <li>・健康年齢の上昇</li> <li>・わいわいがやがやした場所の広がり</li> <li>・小さいところから、医療、包括支援センター、自治会、NPO 等の連携が広がっている</li> <li>・まず知り合いになって(交流があつて)、コミュニティ(信頼関係・相互承認)ができて、それから助け合う(課題解決)ができるので、民間の取組は結果を求める行政ではない 立場が弱い人にも届く補完(ミックス)ができるとよい</li> </ul>